

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270201203	
法人名	医療法人社団 凰雄会	
事業所名	グループホーム ゆうゆう	
所在地	千葉県花見川区犢橋町12番地3	
自己評価作成日		評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム	
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8	
訪問調査日	平成26年3月11日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事において旬の食材、産地直送の米の使用や器、盛り付けの工夫により、美味しい食事作りに取り組んでいる。浴室においても広く設計し浴槽から、外が見える浴室・又車椅子を使用している方にも、リフト浴を設置し、快適な入浴を支援しています。目の前に同法人の施設(介護老人保健施設)が、あり必要に応じ、Dr・看護師・PT・OT・栄養士等との相談、連携ができる体制にし入居者のニーズに合わせて柔軟な支援を行っている。年間の合同行事(夏祭り・バーベキュー大会・餅つき大会等)や日ごろの交流を行っている。

「グループホーム ゆうゆう」は近隣に、同法人・系列法人の施設があり、密な連携により、行事の充実化・地域との交流・柔軟なサービス・入居者の生活の活性化等が実現している。特に、施設行事には、各施設の家族会や地域住民が参加し、とても活気ある催しとなっており、地域住民・家族・入居者から好評を得ている。食事は、随時入居者の希望を確認しながら職員が献立を決めていると共に、盛り付け・旬の食材・産地直送の米や卵等、様々な工夫を凝らし、食に対する楽しさを提供している。連絡ノート・記録・会議等を有効活用し、現場での意見・情報交換を密に行いながら、職員全員が入居者情報を適切に共有出来るよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同いつも目に付く場所に「基本理念」を提示し「理念」の共有と月一回の職員会議で外部研修を受けてきた職員からの報告等で内部研修につなぎサービスの向上に心がけている	「個人の尊厳の尊重」「ゆとりを持ってやさしくふれあう里づくり」という理念を掲げている。理念を事業所内に掲示すると共に、会議や研修の場を活用して、全職員への周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方、地域ボランティア(万祝会・ホクラニアロハクラブ等)の方を招いて、バーベキュー大会、夏祭り、餅つき大会、等を母体と合同で行っている。地元自治会での夏祭りは事業所全体で参加している。	地域行事への参加やボランティアの受け入れを通して、地域との交流を図っている。また、施設行事を開催するには、地域の協力・参加が多数あり、密な関係を築いている。その他にも、法人にて地域小・中学生の職場体験受け入れ等を行っており、法人全体で地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆様方、家族会の皆様方に行事(バーベキュー大会等)に参加された折に介護保険・認知症等について、事例に基づき意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはあんしんケアセンターの方、民生員、地域の方、家族の参加により現状報告、意見交換を行っている。(議事録有)	地域住民・地域包括支援センター職員・法人職員・家族等を構成員として、今年度は2回、運営推進会議を開催した。会議では、施設の活動予定・報告を行い、施設理解の促進に努めると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。	運営推進会議の開催を定例化し、市や地域住民との話し合いの場を設け、より施設の理解促進に努めると共に、外部からの意見や情報を基に、サービスの質の向上に取り組んで頂く事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	千葉県高齢施設課主催の研修への参加。グループホーム協会を通じ市町村との連携を図っている	日頃から市に対して、業務における報告・相談を行っており、連携を図っている。また、市のグループホーム協会に参加しており、会議を通じて市との意見・情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修への積極的な参加をしている。又研修報告をうけてきた職員には職員会議等で研修報告をしてもらい共有している。玄関の施錠は日中はしていないが夜間8時頃からは施錠している。(職員が夜勤者1人になる為)	身体拘束排除におけるマニュアル整備・外部研修への参加・研修内容の報告会等を通じて、職員への理解を促進している。困難事例においては、家族と相談しながら最善の方法を検討すると共に、必要に応じて、法人内で連携を図り、適切なサービスを提供できるよう努めている。	

【千葉県】グループホーム ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一回の職員会議の議題で身体拘束については勉強会を行っている。千葉県の身体拘束廃止研修(専門課程3名は終了している)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	大まかに理解はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族へ(キーパーソン)直接面接し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、行事の参加時等を通じ意見交換をしている。 苦情相談窓口・意見箱を設置している。	家族の来訪時・電話連絡時に意見・要望等を直接確認している。また、運営推進会議や家族会を通じて、意見交換する場を設けている。挙がった意見・要望においては、会議・連絡ノート等を活用し、職員への周知・検討を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月一回の職員会議の中で意見交換している。 代表者との打ち合わせも常に意見交換している	定期的に会議を開催していると共に、職員からの意見・情報を書き込める連絡ノートを活用し、職員からの意見・提案を確認している。また、意見箱には、職員からの意見も投函する事が可能となっており、様々な形で意見を確認できるよう工夫している。その他にも、他施設との合同行事等も行われており、他施設の職員と交流できる機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望を取り入れ、働きやすい環境に努めている。忘年会、新年会、カラオケ等リフレッシュできる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修への参加を積極的に行っている。研修内容の共有と資格取得の推進		

【千葉県】グループホーム ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム協会に加入して、協会が主催する研修に参加している。又協会を通じて千葉市のグループホームとの交流につながっている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の情報を共有し、チームケアを実践しコミュニケーションを図る様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時、不安、要望、既往歴等を聞き取り、契約時に契約書、重要事項説明書の十分な説明をしている。入居後も不安、要望等、本人がホーム内での生活に慣れるまで定期的に報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同法人の特養、老健もあり、多様なサービスの提供が可能である事を説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活習慣・個々にあった役割(食器洗い・洗濯物たたむ等)を職員と一緒に行う事で関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会主催にてバーベキュー・運動会。建物の回りの草取り時に職員と家族又家族同士の交流の場になっている。問題発生した時は家族と話し合い相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊・電話等はいつでも出来る様対応している。入居者が家族の理解を得て入居者の知人・友人と外出する事もある。	親戚・友人の訪問は随時受け付けていると共に、家族との外出・外泊も可能となっており、馴染みの人との関係継続を支援している。また、希望に応じて、ドライブ等を行い、馴染みの場への外出も実施している。その他にも、地域行事への参加や施設行事における地域住民・家族の参加を通じて、様々な人と馴染みの関係を築く事が出来る場を設けている。	

【千葉県】グループホーム ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクの時間にボール投げしたり、利用者様同士で将棋をして楽しみながら、交流を図れる様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用者家族からの通信があり、相談も受け入れている。(ご親戚等の入居相談有)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にカンファレンスを行うと同時、利用者の方一人一人に担当職員をつけ職員会議にて発表してもらい皆で検討する。ケースファイルは見やすい場所に置いている	契約時に本人・家族から意向・身体状況・生活歴等を確認していると共に、必要に応じて他サービス事業所や医療機関からも情報提供を受ける等、より詳細な情報の把握に努めている。会議・連絡ノート・記録等を活用し、職員間で情報を共有しながら、現状に即した支援の実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りは困難な事が多い為家族から生活歴、暮らし方、生活環境等を聞き取り把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、健康チェック表等を朝、夕の勤務の交代時に情報の共有が出来る様になっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを行いケアプランへ反映させている。定期以外にも状況に応じカンファレンスを行い変更している。	家族の意向を基に、会議や連絡ノートで意見・情報交換をし、介護計画を作成している。入居者ごとに担当職員を決めており、担当職員を中心に介護計画の評価等を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。随時、家族へ意向を確認すると共に、連絡ノートや会議で検討し、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・個人別健康チェック表に記録職員間で共有している。状況に応じ変化があればプランの見直しをしている。		

【千葉県】グループホーム ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人との協力体制が整っているので柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のふるさと農園へ行き季節のイベントを見学し季節感を満喫してもらう。又ホーム内のウッドデッキにプランター置き、栽培(ナス、ミニトマト、イチゴ、アサガオ・ひまわり等)して楽しんでもらう様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診継続の方、提携病院に受診の方自由に選択してもらっている。緊急時は家族の承諾のもと協力病院に受診できる様になっている。	希望の医療機関への受診や内科・歯科往診を実施しており、適切な受診支援を行っている。通院時には、付き添い・同行し医師との情報交換を行いながら適切な支援の実践に取り組んでいる。必要時には、医師と電話で相談する事も可能となっており、入居者の対応変化に随時、的確・迅速に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームには看護師が配置していない為協力病院の医師、看護師との連携を密にしていると同時母体施設(老健)の医師、看護師にも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、看護師と話し合いと家族との連携も図りながら、退院後も安心して過ごせるような体制を作っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期まで看取って欲しいとの家族の要望が多いが協力病院の医師・家族と相談しながら対応している。	終末期・重度化においては、家族に意向を確認しており、医師と相談しながら適切な対応を行っている。必要に応じて、法人の他施設とも検討しながら、サービスの切り替えも円滑に行えるよう協力体制を構築している。リビング横に和室があり、重度化・急変時には、手厚い見守り体制が取れるようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成されており、職員会議でも繰り返し確認している。		

【千葉県】グループホーム ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災通報専用電話機の設置。災害マニュアルを作成している。ホーム内で防災訓練を定期的に行っている。	火災報知機・スプリンクラー・自動通報機等の消防設備を設置していると共に、年2回、消防避難訓練を実施している。訓練では、通報訓練・非常階段からの避難訓練・消火器訓練等を行っており、災害時・緊急時の対応を確認している。また、近隣に法人の施設があり、緊急時には協力が得られる環境にある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴におけるプライバシー・排泄介護におけるプライバシー・等のマニュアルで研修している(職員会議にて)	プライバシー保護・接遇等のマニュアル整備・研修の実施を通じて職員への理解を促進している。希望に応じて、同性介助の実施・声掛けの工夫を行うと共に、カーテンや使用中の札を活用しながら入居者のプライバシーに配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定ができる様促し職員が希望を聞く等して表出しやすい状況をつくる努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活パターンの中で天候、気分、体調により、その人に合った快適な時間を過ごされるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の理美容師の方に定期的に訪問して頂いている。服装に置いては夜勤者が利用者と相談し、又その日の利用者の気分でコーディネートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前に好き嫌いを聞き、楽しみのある食事に行っている。今現在職員と一緒に食事の準備が出来るレベルの利用者はいないが皿洗いが出来る利用者はいる。	入居者の能力や希望に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。また、入居者の希望を随時確認しながら、職員が献立の作成を行っている。定期的に外食会や行事食を実施すると共に、施設敷地内でのバーベキューや地域住民も交えた餅つき大会等、様々な楽しみ事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量(3回)、水分摂取量を記録している。存在歯や嚥下状態によっては、刻み食、トロミ食にして工夫している		

【千葉県】グループホーム ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄(夜間帯でポリドント洗浄)歯磨き、うがいは個人に応じて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して一人一人の排泄パターンを把握することでオムツの使用を減らしている	入居者一人ひとりの排泄状況を記録し、個々のパターンに合わせた声掛け・トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。日頃から水分・食事内容を工夫すると共に、必要に応じて、医師に相談し、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の記録表を活用し(一日千CC以上を目安)て往診時Drの指示を仰いでいる。朝は毎日9:30から全員でラジオ体操を取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の状況に応じ午前、午後にも入浴できる様にしている。	入居者の希望等に配慮しながら、時間や回数を調整しながら適切な入浴支援を行っていると共に、必要に応じて清拭・部分浴・シャワー浴等を実施し、入居者の清潔保持に努めている。また、季節に合わせて、ゆず湯等を実施し、楽しい入浴を支援している。浴室の大きな窓は良い景色が展望でき、開放的な造りとなっており、入居者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全員個室対応にはなっている為、テレビ鑑賞したり、昼寝したり自由に過ごされているがほとんどリビングですごされて方が多い。リビングのソファーでうたた寝されている利用者もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診日に体調を報告し主治医からの処方により薬担当が管理し、個人個人の薬の使用目的がわかるファイルを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一ヶ月の日程と活動に沿って支援している。又その人に合わせ(好きな事、嫌いなこと)た活動も取り入れて支援している。		

【千葉県】グループホーム ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候と体調にもよるが、ドライブ、近隣の公園に散歩、外食、近隣のホームへ散歩を兼ねて遊びに行ったり、途中で買い物したい希望があればコンビニで買い物の支援をする。外泊においては家族の協力を得ている。	天候や体調に応じて、日頃から散歩・ドライブ等の外出活動を行っていると共に、ウッドデッキや広い駐車場を活用して、気軽に外の空気を楽しめるよう工夫している。定期的に外出会や行事を企画し、戸外での楽しさを提供している。その他にも、法人の他施設や地域のグループホームとの交流行事も行われており、外部との交流が入居者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方はいないので、家族の承諾の下職員同伴で買い物をする。その時点で利用者へ現金を渡し支払をしてもらうが主に100円ショップへ行く事が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの事務所内で職員が横につき電話かけられる様にしている。(家族承諾の下)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの共有スペースはゆったりとした空間を確保しており、廊下の壁等は季節感を取り入れた展示物を掲示している。トイレ等混乱しない様ネームプレートや場所の名称をかけた装飾をしている。	共有スペースには、ソファ・テーブル等が設置されており、入居者が自由にくつろげる環境となっている。また、和室スペースがあり、急変時には、手厚く見守りが行える環境が整備されている。広く設けられたウッドデッキや駐車場は、お茶飲みや行事等、入居者の楽しみ毎に活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、リビング等にはそれぞれ自由に過ごす事が出来る様、長椅子、ソファ等を置いている。又ウッドデッキへ出て日光浴が出来る様、自由に出入りできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等自由に配置できるようになっている。制約はない。畳とフローリングの2種類の居室を用意している。仏壇を持って来られている利用者様もいる。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、布団を敷く事や畳・テレビ等を使用する事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はすべてバリアフリー設計になっている。ドアは引き戸になっており、廊下の幅は車椅子での歩行にもゆとりがあり手すりも設置している		